



132号 2009.2

図書館だより

中央図書館 川口 1-1-1	048(227)7611	前川図書館 前川 1-3-18	048(268)1616
新郷図書館 東本郷 1688	048(283)1265	横首根図書館 仲町 10-16	048(256)1005
戸塚図書館 戸塚東 3-7-1	048(297)3098	芝園分室 芝園町 3-17	048(269)2241
芝北文庫 [芝北公民館内]	048(227)7611		

パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/docshp/index.html>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>

携帯用 QR コード



わたしの今年の一冊 2008

昨年お読みになった本の中で印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は今回で14回目となりました。60点以上のたくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で20点、掲載させていただきます。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

「温かな手」石持浅海

東京創元社 913.6/イ

最後の一編の切なさに涙が出ます。全7編のミステリ連作ですが、1から6編までの日常に浸る分、「別れ」「謎解き」「未来」が琴線に触れます。読後に表紙、裏表紙の絵で、また涙。(50代女性)

「ある秘密」フィリップ・グランベール

新潮社 953.7/グ

悲惨な戦争の中でもフランスらしい「愛」がからむ。物語の最後、戦争も終わって、お墓を探す場面だが、とても憤りを感じた。フランスの高校生はこの小説を「高校生が選ぶコンクール賞」に選んだという。彼らにも戦争反対の思いがおきたのだろう。(50代女性)

「アンネの日記」アンネ・フランク

文藝春秋 949.35/フ

この本の存在は知っていましたが、読んだことはありませんでした。読んでいくうちに、いつのまにかアンネ・フランクが私の親しい友人であるような気持ちになっていました。その大切な友人が突然私の前からいなくなりました。のちに彼女や、そこで生活していた人達の身に何が起きたのか知った時、私は思わず声を出して泣いてしまいました。アンネ・フランクと出会えて本当によかった。(30代女性)

「厭世フレイバー」三羽省吾

文藝春秋 913.6/ミ

この作者の作品を読むのは「タチコギ」に次いで2冊目です。ストーリーの組み立て方がおもしろく、いっしょに読めます。また、次はどうなるのか...とひきこまれてゆきまです。家族のそれぞれの視点から書き込まれているので、おもしろい。これからの作品にも期待したい作者です。(40代)

**「幸福の王子」オスカー・ワイルド
偕成社他 933.6/ワ**

子供のころ、絵本で読み、初老となった今、再読した。オスカー・ワイルドの数々の作品の中では、ピカイチであろう。この作品を読んだ人は、この様な心の優しい人になって下さい。
(50代男性)

**「コンタクト 上・下」カール・セーガン
新潮社 933.7/セ**

本と映画の両方ともみました。カール・セーガン博士が他の著書の中で書いてこられた科学の学術的な話を物語として表現しています。真実に裏打ちされたSFという感じです。何度でも読み返したい本です。(40代女性)

**「女子鉄」女子鉄制作委員会
マープルトロン/中央公論新社 686.2/ジ**

「私を鉄道好きにしてくれた本」と言っても過言じゃありません。実際の旅の様子だけでなく、男女問わず「鉄道入門書」として楽しく読めます。本を読むだけで旅に行った気分にもなれます。忙しかったりして旅に出られない人にも気分転換になります。(30代女性)

**「人類愛に捧げた生涯」瀬戸内晴美
講談社 281/ジ**

戦後の酷い飢餓と混乱の中で劣悪な環境にあった「混血児」数千人の為に私財を投げ打ち施設を作った沢田美喜という人に驚嘆する。財閥出身の経歴を社会貢献へと転化させた生き方に感服するのである。理念ある行動が国を社会を動かしていくという事実を忘れてはならないと思った。(50代)

**「こっちへお入り」平安寿子
祥伝社 913.6/タ**

この小説を読むと、今まで「聴く」ものだった落語が「演る」ものであると感じさせられる。ついつい落語教室に行ってみたい自分も語ってみたいと思わせられる。落語、いいなあ。平さんもいいなあ。(40代)

**「真田勇軍記 1～3」伊藤浩士
学研 913.6/イ**

2009年度の大河ドラマが、「天地人」で直江兼続の事を放映し2010年度が「龍馬伝」で坂本龍馬の事を放映するところが、2011年度はこの作品を放映してもらいたいものだ。著者は以前、名古屋美術館に勤務していた歴史学者である。内容はここでは敢えて書かない。是非、一読を。(50代男性)

**「新世界より 上・下」貴志祐介
講談社 913.6/キ**

独自の世界観を持った作品で引き込まれるように一気に読了しました。ロードオブザリングなど同系列の本と比べてもそんな色なく、現代とリンクしているので違和感も少なく、大人が楽しめる作品です。(40代)

**「世界がキューバ医療を手本にするわけ」
吉田太郎 築地書館 498.0/ヨ**

キューバ1ヶ月の1人の旅に情報集めをした時の一冊。日本の福祉の後退とキューバの医療無料、教育費(大学まで)無料、本当に貧しい国なのに素晴らしい。日本はどうしちゃったのか。

「とんび」重松清

角川書店 913.6/シ

子どもの成長を見守る父親の姿と、その子どもを我が子のように見守る周りの人達の温かさに、思わず目頭があつくなりました。子育て中のお父さん、ぜひ読んでみて。

(30代男性)

「ボローニャ紀行」井上ひさし

文藝春秋 915.6/イ

著者は30年来ボローニャへの関心(敬愛)を抱き、ついでに行く。なぜそんなに関心があるのか?「皆で住む良い街を作っていく」という精神性が主題。美しい日本語で書かれていて解り易く、ユーモアを交えた文章は心地良い。そして「我が町川口」を考えた。一読を!(60代女性)

「闇の子供たち」梁石日

解放出版社 913.6/ヤ

グローバル下の名の下の幼児性愛、生きたまの臓器移植等、貧困がいとも簡単に人間の尊厳を奪ってしまう過酷な現実、通常の戦争以上におそろしい現状をタイを舞台に鋭くえぐり出した作品で余りにも想像力に欠けた日本人に衝撃を与える。是非読んでほしいです。(50代女性)

「レインツリーの国」有川浩

新潮社 913.6/ア

著者の代表作「図書館戦争」からのスピンオフ小説でしたが、聴覚障害という問題について考えさせられました。日常においていかに無意識的な差別的状況が多いのか、健全者の彼らに対する情報量の少なさに驚きました。著者のチャレンジ精神に拍手したいです。(40代女性)

「ぼくと未来屋の夏」はやみねかおる

講談社 913.6/ハ

推理小説が好きで、よくはやみねかおるの本を読むが、キャラクターと本当に話しているように感じるこの本は一押しです。身近に起こりそうで起こらなそうな事件をとく未来屋はあなたをきっと夢の世界へ連れて行ってくれますよ。私と同じ小学生も楽しめます。(10代女性)

「モニタールーム」山田悠介

角川書店 913.6/ヤ

4人の子供と1人の大人が地雷区域に暮らしていて、この著者らしいスリルのある話でした。この本を読んでから地雷について強い関心を持ちました。結末は想像もしないようなことで驚きました。(10代女性)

「八日目の蝉」角田光代

中央公論新社 913.6/力

家族の絆、親子の愛について考えさせられる一冊でした。誘拐した赤ん坊をわが子のように育てた女性。生後6ヶ月で誘拐され、5年間を他人に育てられた少女。幼児誘拐事件という内容でありながら、残酷というよりむしろ深い愛に包まれた愛情物語でした。(30代男性)

「約束」石田衣良

角川書店 913.6/イ

短編集に込められた一字一句に心を打たれ何度も目頭を押さえた。この感動をあの人とあの人にもと思えた作品だった。(60代男性)

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想のすべては、掲載できませんでした。
書名だけでも、次にご紹介させていただきます。

「10歳の放浪記」上条さなえ「赤めだか」立川談春「あじさい日記」渡辺淳一「アドルフ・ヒトラーの一族」ヴォルフガング・シュトラール「アメリカの宗教右派」飯山雅史「犬と私の10の約束」川口晴「いま、島で」灰谷健次郎「刺青・秘密」谷崎潤一郎「うちの3姉妹」松本ぷりっつ「江原スピリチュアルの大嘘を暴く」大槻義彦「大江戸人情花火」稲葉稔「還るべき場所」笹本稜平「株で富を築くバフェットの法則」ロバート・G.ハグストローム「神々のトリック」大槻義彦「神谷美恵子日記」神谷美恵子「河」小田実「きみの友だち」重松清「牛肉と馬鈴薯」国木田独歩「逃げ水の坂」鈴木英治「くちぶえ番長」重松清「好戦の共和国アメリカ」油井大三郎「コリンローズの加速学習法」コリン・ローズ「子規三大随筆」正岡子規「史記列伝」司馬遷「シゴフミ」雨宮諒「しゃぼん玉」乃南アサ「車輪の下で」ヘッセ「証言沖縄」集団自決」謝花直美「新幹線ガール」徳淵真利子「新選組全隊士徹底ガイド」前田政記「その日のまえに」重松清「タイヨウのうた」天川彩「なぜ君は絶望と闘えたのか」門田隆将「橋のない川」住井すゑ「ハリー・ポッターと死の秘宝」J.K.ローリング「豚の死なない日」ロバート・ニュートン・ペック「米軍はイラクで何をしたのか」土井敏邦「兵隊万葉集」早坂隆「迷子の天使」石井桃子「まぬけなワルシャワ旅行」I.B.シンガー「ムーミン・コミックス」トーベ・ヤンソン/ラルス・ヤンソン「夫婦善哉」織田作之助「闇の検事」太田蘭三「世に棲む日日」司馬遼太郎「流星の絆」東野圭吾「列車名徹底大研究」曾田英夫

お読みにになりたい本が見あたらない時は、どうぞカウンターへお申し出ください